

家畜衛生だより

令和6年9月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

自然災害等のリスクに備えましょう！

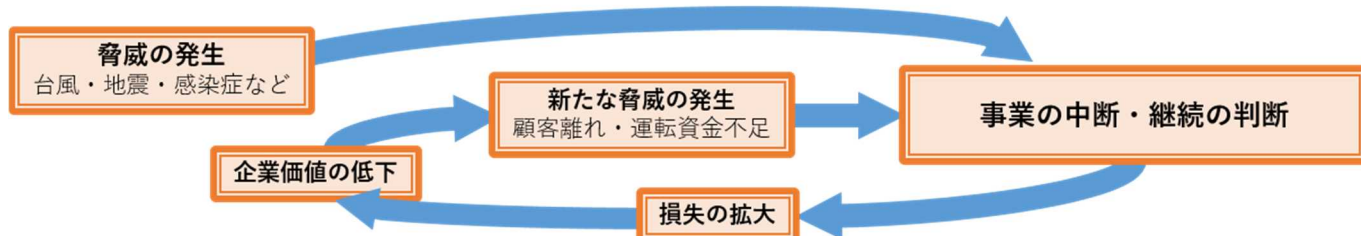
近年、日本各地で大規模な自然災害等が多発しています。9月1日は「防災の日」であるとともに、9月は1年でもっとも台風上陸数が多い台風シーズンです。

また、本年8月8日には日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、あらためて地震への備えが呼びかけられました。



畜産は台風や地震のような自然災害等の影響を受けやすい仕事です。そこで、自然災害等に備えて農場の「事業継続計画（BCP）」を作成しておきましょう！ BCPとは、「Business Continuity Plan」の略で、自然災害等で人員、電気、水、飼料、資金等が足りなくなり、農場の仕事の中断が想定される状況で、どの仕事を優先して続けるか、どうやって再開するかの計画です。

平常時からBCPを策定しておくことで、下の図のような緊急時に発生する負の連鎖を、早い段階で断ち切ることができます。



計画として文字にすることで、家族・従業員間での危機管理意識の共有や、普段の経営の見直し・改善にもつながります。

次ページより、BCP作成の参考となる情報や、簡易版BCPの作成例などをご紹介します。

自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版 BCP について

① 農林水産省ホームページ (https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html)

「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版 BCP」のページを開いてください。



こちらのQRコードから
ホームページを開くこと
ができます

② 自然災害等のリスクに備えるためのチェックリスト(リスクマネジメント編)【畜産用】ファイルを開いてください。
平時からのリスクに対する備えや、自然災害等への直前の備えに関する事項についてチェックできます。

(チェック項目の例)

③ 自然災害等のリスクに備えるためのチェックリスト(事業継続編)【畜産用】ファイルを開いてください。

被災後の早期復旧・事業再開の観点から対策しておくべき事項についてチェックできます。
また、こちらのファイルの入力フォームに各農場の経営に合わせた具体的な内容をあてはめていくと「農業版 BCP」
が簡易作成できるようになっています。

(チェック項目の例)

入力フォームに各農場の経営に合わせた
具体的内容を入力すると...

農業版 BCP (簡易版) の完成!

農業版事業継続計画書（簡易版） 繁殖肉用牛農家（30頭飼養）の作成例

策定・改定日	2024年9月1日	従業員・家族共有日 <small>（策定・改定日から1ヵ月以内）</small>	2024年9月15日	次回改定予定日 <small>（1年ごとに改定）</small>	2025年9月1日
想定リスク	自然災害（台風、地震）				

1. 基本方針

緊急事態発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	家族の命と生活を守る
2	家畜の命と健康を守る
3	農場の経営を維持する

2. 重要業務と目標復旧時間

以下の業務を最優先に、目標復旧時間以内の復旧を目指す。

重要業務	飼養業務（餌やり）・繁殖業務（分娩）
目標復旧時間	12時間以内

3. インフラ等の被害による重要業務への影響と対応（代替手段）

種別	影響	対応（代替手段）
電気	換気扇、給水ポンプ、照明の停止	非常用電源（軽油）の利用
ガス	利用なし	
水道	飲料水の不足	揚水ポンプで川水を利用、シートを利用した簡易貯水槽
情報通信	取引先・出荷先との連絡	携帯電話、インターネット（SNS、メール等）
交通	飼料運搬車・家畜運搬車の停止	餌は備蓄、出荷は延期
ほ場等	牛の安全確保、施設の損壊	牛は老朽箇所から離し放飼場へ避難、頭数を確認

4. 事前対策の実施状況

ヒト	安否確認手段	携帯電話、ネット（SNS、メール等）	連絡体制	A氏（農場代表）が家族全員に連絡
	避難場所	新築の倉庫（高台、耐震補強済み）、安全な場所に避難させた自動車内		
	欠員対応	家族間で補充		
	その他	ハザードマップ等を家族全員で確認		
モノ	設備の損壊	電気配線図、水道配管図などを準備。分娩牛は普段から頑強で安全な舎内で管理。		
	調達の支障	飼料は10日分、燃料は1週間分以上を目安に必要な量を試算し、常に備蓄・更新する。		
	その他	施設の老朽箇所は事前に補修。凍結精液タンクの転倒防止。		
カネ	手元資金			
セーフティネット	保険加入	牛舎の損保保険加入済み、家畜共済加入済み		
情報	重要情報保管場所	会計データ：税理士事務所、生産データ：携帯・PC		
	PC等使用不可時の対応			
	その他	関係機関等の連絡先の把握、整理		
その他	地域連携	大規模自然災害発生時の市場開催、出荷対応等について生産者団体で事前協議済み		

4. 緊急時の体制

総括責任者	事業継続担当責任者
A氏（農場代表）（代理：B氏）	B氏（家族/従業員）（代理：C氏）

【初動対応フェーズ】（目安：想定リスク発生時～24時間以内）

状況確認	確認対象	担当者	確認対象	担当者
	家族全員の安否	A氏（農場代表）	飼料・堆肥・農業等の状況	C氏（家族/従業員）
	家畜の状況	C氏（家族/従業員）	通信・ITの状況	B氏（家族/従業員）
備蓄品の状況	建物・設備等の状況	C氏（家族/従業員）	取引先の状況	B氏（家族/従業員）
	救急箱（2セット）	飲料水（2L×20本）	食料（家族5名×7日分）	ヘルメット（5個）
	懐中電灯（5個）	簡易トイレ（20セット）	毛布（5枚）	車載用電源コード
出勤・帰宅ルール	作業時	原則、作業を中断し農場隣接の自宅で待機		
	在宅時	原則、自宅待機（極力連絡がとれる状態に）		
	その他	原則、一番近くの安全な場所で待機		

【事業継続フェーズ】（目安：初動対応完了後）

	対応手順		担当者
①現状把握 （発生～3時間以内）	牛の被害、健康状態	牛舎、給水機などの被害状況	A氏（農場代表）
	従業員の安否および作業対応	非常用電源の確保	
	保険会社への連絡	生体、出荷状況	
②作業準備 （発生～10時間以内）	被災状況に応じた作業方針決め	非常用電源の確保（不可の場合は手作業シフト）	C氏（家族/従業員）
	従業員への指示	取引先・関係機関への状況報告	
③飼養・繁殖業務 （発生～12時間以内）	飼養・繁殖作業の再開	被災状況に応じた出荷方針決め	C氏（家族/従業員）
	共済への被害報告	取引先・関係機関への状況報告	

BCP策定後の運用	日頃から緊急時における対応を家族や雇用者と話し合ったり、実際に訓練を行っておくことが重要であり、そうすることで緊急時における各人の行動が明確になり、復旧までの時間を短縮できます。 また、「1年に1回は見直す」「策定したら1ヶ月以内に皆で確認する」などルールを決めて、運用を心掛けることが重要です。
------------------	---